平鹿総合病院の理念「四つの柱」

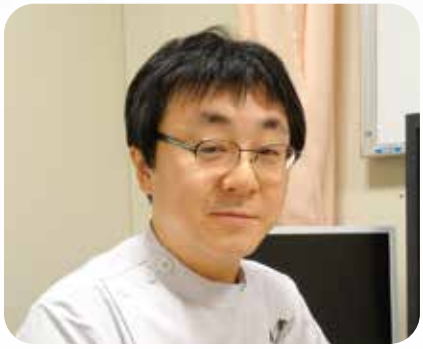
より高度な臨床
より深い研究
より広い教育
より積極的な保健活動

2024.5
Vol.34

地域医療連携室だより

Community Healthy Network News

共に診る・共に支える地域医療



今後の地域連携、お手を拝借いたします。それでは・・・

平鹿総合病院　副院長　高　橋　俊　明

昨年2023年は、４年ぶりに平鹿総合病院医局忘年会を開催することができました。

３年間中止していたのはまさに“アレ”のせいなのですが、医師会の皆様も発熱患者さんへの対応は大変なご苦労だったことと思います。当院では500人近い患者さんを入院診療しました。

ずいぶん古い話ですが、夏目漱石に「彼岸過迄」という小説がありまして、明治40年代、1910年前後の作品でしょうか、この中に主人公が友人と、大きな川縁の料亭でうなぎを食する場面があります。この料亭は実在しておりまして、柴又の江戸川沿いにある「川甚（かわじん）」という川魚専門の老舗です。創業が江戸後期の寛政年間、1790年といいますから、小説に書かれた時点で既に創業120年だったことになります。

それからさらに60年ほどして川甚は「男はつらいよ」第1話で、さくらと博の結婚披露宴の舞台として使われます。いつか訪れてみたいと思っていましたが、コロナ禍のため惜しまれつつ231年の歴史に幕を下ろしました。

コロナのために社会が大きく変化したことを感じておられるかたは少なくないと思います。リモートワークやオンライン会議・学会は当たり前、ロボットやAIなどの実用化も加速されました。

しかしながら、昔のよいものにあと戻りしても決して悪くはないだろうと思います。親しい方々と直接膝を交えながらお酒を酌み交わす喜びを、ロボットやAIに横取りされたくはないですよね。

それでは今後の地域連携の発展とご協力いただいている皆さまのご健勝を祈念いたしまして、一本絞め、正しくは一丁締めというそうですが、ポンと一つで締めたいと思います。お手を拝借いたします。

それでは、よおおおー、　　ポン！

もくじ

今後の地域連携、お手を拝借いたします。それでは・・・ …… ❶
連携医療機関・介護福祉施設のご紹介 …… ❷
当院の診療科のご紹介 …… ❸
トピックス …… ❹

JA秋田厚生連・平鹿総合病院

連携医療機関・介護福祉施設のご紹介

はや食いと認知症

下田内科消化器科医院
院　長
下　田　　泉

2003年に開業して以来、平鹿総合病院にはいつも大変お世話になっており、この場を借りて深くお礼申し上げます。私が勤務していた当時は「消化器・糖尿病内科」ではなく「第一内科」と呼ばれていましたが、当時ともに働いていた医師、看護師、技師、事務員で、現在も勤務されている方はとても少なくなりました。そして2020年に父が入院した際、病棟に（私の頃はほとんどいなかった）若い男性看護師が多くいて、「気は優しくて力持ち」の彼らが病棟の大きな戦力になっている事に時代の流れを感じました。私は消化器内科を中心に診療してまいりましたが、最近は再診患者さんも徐々に高齢化し、認知症の簡易検査や紹介状作成の頻度がめっきり増えました。親御さんや姑さんが認知症である患者さんも多くなりました。消化器・糖尿病の立場から「よく噛んで食べないと駄目ですよ」といっても馬耳東風だったそういう患者さんに、「よく噛む事は脳にも刺激になって良いのですよ、よく噛まない『はや食い』の人は早く認知症になりますよ」と言うと「あや、そえなばでげね！」と言ってよく噛む事に関心を示してくれる様になります。このように毎日の診療、書類作成に忙殺されていますが、今後とも宜しくお願いいたします。

地域への信頼と貢献をめざして

グループホームりんご村
施設長
和　賀　典　子

このたび、地域医療連携室だよりの原稿の依頼を頂きました。この場をお借りして平成16年2月にりんご村を開所して20年余り、今まで関わって下さった多くの皆様方に感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

認知症対応型共同生活介護グループホームりんご村はその名前の通り認知症を患っている方を365日24時間体制で見守らせて頂いている介護施設です。私たち介護職員に求められる要望はこの数年で大幅に様変わりしております。その一つ一つに向き合いながら日々、入居者様が穏やかに安心して過ごせるように努めております。

平鹿総合病院の訪問看護ステーションと医療連携を交わしてからりんご村における終末期ケアがスタートしました。私たち介護現場で「出来ること」は限られており、医療面のサポートを通して「不安な部分」を、地域のかかりつけ医と連携して頂き、共に「安心」に変えて頂くことで、ご家族様と共に人生のゴールに結びつけております。これからも様々な課題はありますが、共に手を取り合い地域に根差したりんご村を目指していきたいと思っております。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

当院の診療科のご紹介

脳神経外科 ～脳血管内治療について～

平鹿総合病院　脳神経外科
科　長　國　分　康　平
日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医

●当院の脳卒中診療

現在当院脳神経外科では、4人の脳神経外科専門医が常勤医として勤務しています。脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）や頭部外傷、てんかん、脳腫瘍などについて主に対応しています。当院では2022年以降脳血管内治療専門医が常勤医として勤務することになりました。以降、当院では脳血管内治療を常時展開できる体制となり、当院での脳卒中診療がより進んだものになったかと考えています。例えば、クモ膜下出血の原因となる脳動脈瘤に対しては従来の開頭術に加えて瘤内塞栓術を行うことが可能となりました。また、頚部頚動脈狭窄症については内膜剥離術に加えて頚動脈ステント留置術も選択することができるようになりました。このように、現在当院での脳卒中診療においては治療の選択肢が増えたため、患者さんの状態に合わせた治療を選択できるようになりました。

●血栓回収療法 ～Time is Brain～

脳血管内治療において特に緊急性を要するものは血栓回収療法となります。超急性期脳梗塞に対する従来の治療はtPA静脈注射をはじめとする薬物療法のみでしたが、薬物療法のみでは脳主幹動脈閉塞に対しての効果が乏しいとされています。近年、脳主幹動脈閉塞に対しての緊急での血管内治療、いわゆる血栓回収療法の治療成績が、従来の薬物療法と比較して著明に上回るとされ、世界的に急速に普及されているところです。

血栓回収療法の治療成績は、一般的に脳梗塞発症からの時間経過に伴い悪化することが知られています。脳卒中診療に携わる医師の間でTime is brainなる標語ができた所以です。このため、①発症から受診まで、②受診から治療開始まで、③治療開始から再開通まで、各phaseの時間短縮が求められます。当院では②、③のphaseに対しての時間短縮に取り組み、可能な限り短時間で治療を完遂できるように院内体制を整備しています。

●脳卒中の病診連携について

発症からの時間経過、症状の程度などから緊急性を判断しています。上記の血栓回収療法のように緊急で治療を要するcaseもあるため、脳卒中を疑ったらまずは気軽に連絡をいただきたいと考えています。

治療後の患者さんについてですが、軽症の患者さんの場合、状態が安定した患者さんから順次紹介元の先生方に逆紹介をしています。一方で脳卒中はADLが著明に悪化してしまう患者さんも多いため、そのような患者さんについては入院中から退院支援看護師、MSWが介入し、退院後に必要な介護サービスがスムーズに受けられるよう協働しています。

ご紹介を頂く先生方、各介護施設におかれましてはいつも大変お世話になっております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

第9回　連携フォーラムひらか

「連携フォーラムひらか」は平成24年より、横手・平鹿地区の医療機関との病診・病病連携の推進を目的に開催されておりました。近年は新型コロナウイルス感染症の影響で平成31年より開催が出来ていませんでしたが、約４年ぶりに連携フォーラムひらかを開催いたしました。久しぶりの開催ではありましたが、地域の先生方との意見交換や親睦を深める貴重な場となりました。今後も、感染症などの状況を見ながら定期的に開催していきたいと思います。

開催時期

令和5年11月22日（水）18時30分

場　　所

横手セントラルホテル　ラポート

参加人数

地域医療機関の医師　10名
院内関係者　28名　計38名

講　　演

1）当院における緩和ケアチームの取り組みについて
　　がん医療相談室　看護主任　奥山　奈穂子

2）褥瘡から考える地域医療
　　形成外科　科長　村木　健二

3）当院の現状について
　　熊谷医院　院長　熊谷　理夫

意見交換

懇 親 会

フォーラムへのご意見（一部抜粋）

・今後の病診連携の在り方を考える方向性が理解できた。
・高齢化、独居の増加、人口減少という現状の問題の中でとても勉強になる講演だった。
・平鹿病院かかりつけの方の場合はかかりつけの科で診察し、相談できる体制があれば良いと思う。

地域医療連携室スタッフ

室　　長　榎本　好恭
医事課長　佐藤　紀子
看護主任　大沢　知佳
事　　務　佐藤　滉
　　三原　妃葉

平鹿総合病院
〒013-8610　秋田県横手市前郷字八ツ口３番１
代表 TEL：0182-32-5121　FAX：0182-33-3200
URL：http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/

地域医療連携室
＊月曜日～金曜日（土日祝日除く）8：30～17：00
時間外は救急センターへご連絡をお願いいたします。
直通TEL：0182-45-6012　専用FAX：0182-32-0698
E-mail：tiiren@hiraka-hp.yokote.akita.jp